

## 「分かち合いの大切さを考える」

言葉による伝え合いを、幼児期に育てていきたい姿として大切にされてきていますが、言葉以前に、人と人の間に生まれる物語も大切にしていきたいと思っています。

そこで、自分の思いが、言葉を使わずして相手に届くことの素敵さを感じるエピソードを示し、味わいたいと思います。



4歳児保育室にあるプラフォーミング積み木を使ってバスを作っているBさんとCさん。その近くでは、家を作るために、同じ長さの積み木を集めているDさんがいました。BさんとCさんは、4段ほど積み重なる積み木の上に座って、向こう側にある自分達の作ったバスを眺めながら、次はどう作ろうかと話していました。そこへDさんが1人で長い積み木を戻しにきました。Dさんは、積み木を1つ片付けたいけれど、BさんとCさんが座っているし、どうしようと、じいっとしていました。Dさんの表情はというと、硬くはなく、どちらかという普段の表情と変わりません。すると、座っているBさんが、その姿に気付いて、別なところに動きました。それを感じたCさんも同じように動きました。無事に積み木が片付いたので、Dさんはホッとしたような笑みを浮かべて、2人の目をちらりと見つめました。BさんとCさんも、しばらくそこに居て、何かを味わう姿がありました。

片付けたいな



除けてほしいという  
思いを受けとった

BさんとCさん

Bさんが動いたこと  
で、Cさんも気付いた

困っているという  
思いが届いた

このエピソードの3人は、言葉を使わずに、思いを分かち合っている姿がありました。他にも友達がいた場の中で、Dさんの思いが、BさんとCさんに届いた姿から、人と人との間で生まれるあたたかさのような、言葉にできないもっと深いところで分かち合っていたような感じがしました。

言葉を生む前に（思いを言語にしていく前に）大切にしたいこと、見ておきたいこととして、毎日の暮らしの中で、他者との物語をどのように紡いできたか、そこでどのような感情がうまれたのかという視点です。

「言葉にしなければ、思いやアイデアは伝わらない」と思いがちですが、本当に自分の内面にある感情にじっくりとくると言葉を使って他者と関わっているのかを問う必要もあると思います。人として、よく自分自身の内面を見ていきたいし、こどもの内面と言葉が一致しているかどうかを見る必要があると考えます。そして、分かち合いを大切にしていきたいです。

(高瀬 ますみ)